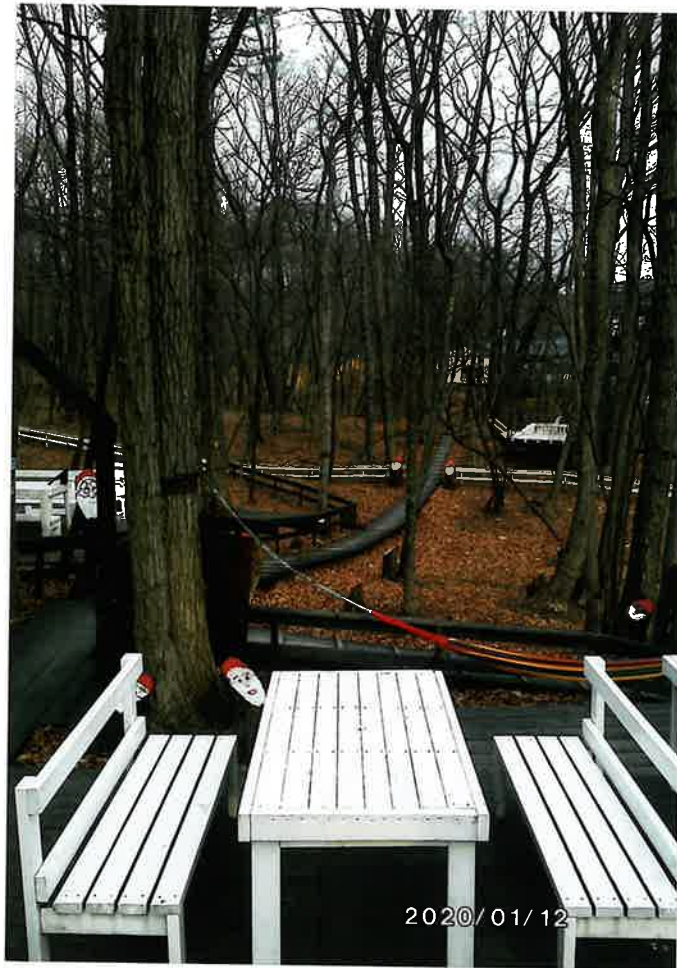


植物ビジネスレター



栃木県那須町
「フリンギの森」にて。

令和7年(2025年)

12月

(テーマ)

- ・ プリンス・エドワード島(カナダ)と
(赤毛のインディアン)

白河地方

- ・ 東北のビジネスへの序章

「日本再考」 - ^{あか 2011 の1 年} 赤坂憲雄 編著 -

ボタニカル
(botanical

エイジアン
Asian)

齋藤 弥生

★ プリンス・エドワード島

カナダ東部にあり、緯度は、日本列島の北方四島とほぼ同緯度にあり、湾内の島で、標高も低く、(0~200m) 比較的温暖である。

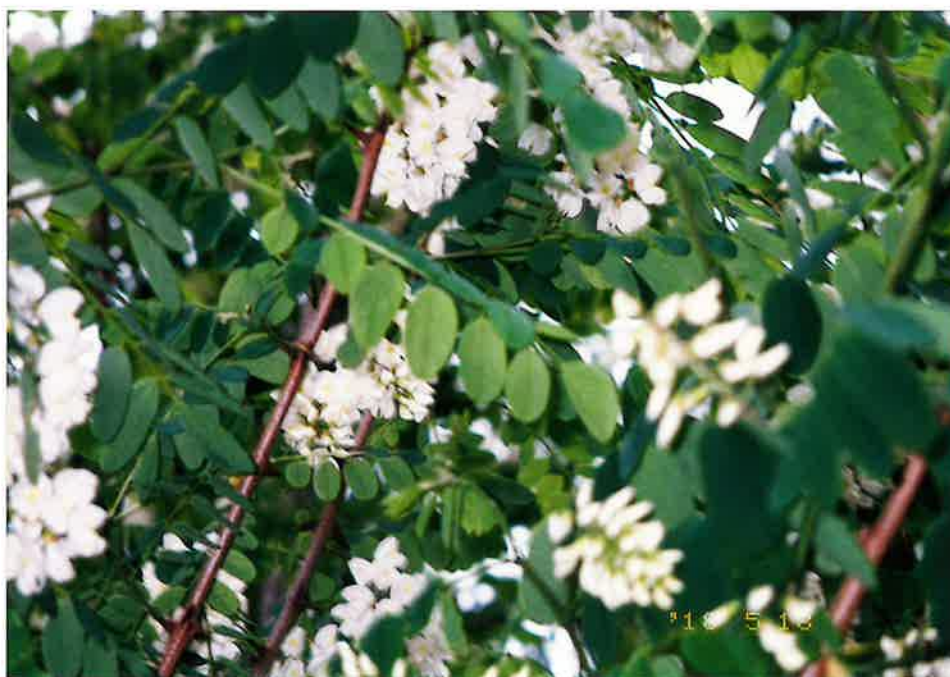
★ 白河地方

日本列島の 奥羽山脈南端にあり、標高は、200m~600m と高く、夏は、日差しが強いが、冬は、シベリアから、北西の季節風が吹き、比較的寒冷である。

★ 赤毛のアンの舞台背景 (プリンス・エドワード島) <島内にあり代名>

- キャベンディッシュ (アウゴンリー村のモデル)
- シャーロットタウン (島で一番の中心都市)

★ プリンス・エドワード島と白河地方の自然の色合い は、大変、似通っている。(参考書籍：赤毛のアンの世界へ (株)学研パブリッシング)



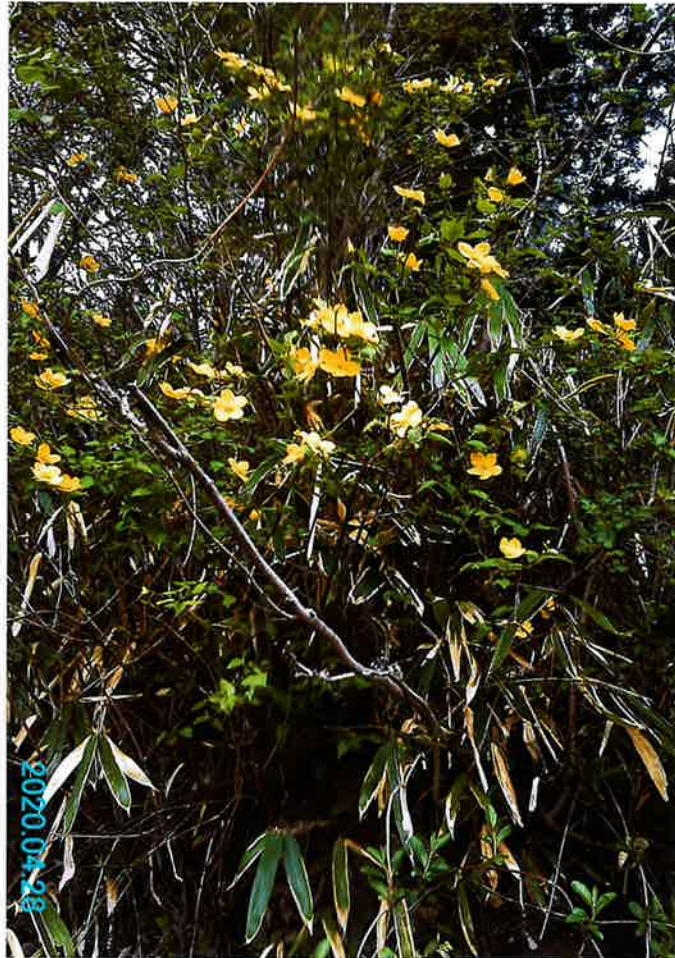
白色

アカシヤ



黄緑色

梅の葉



黄色

ヤマブキ



紫色

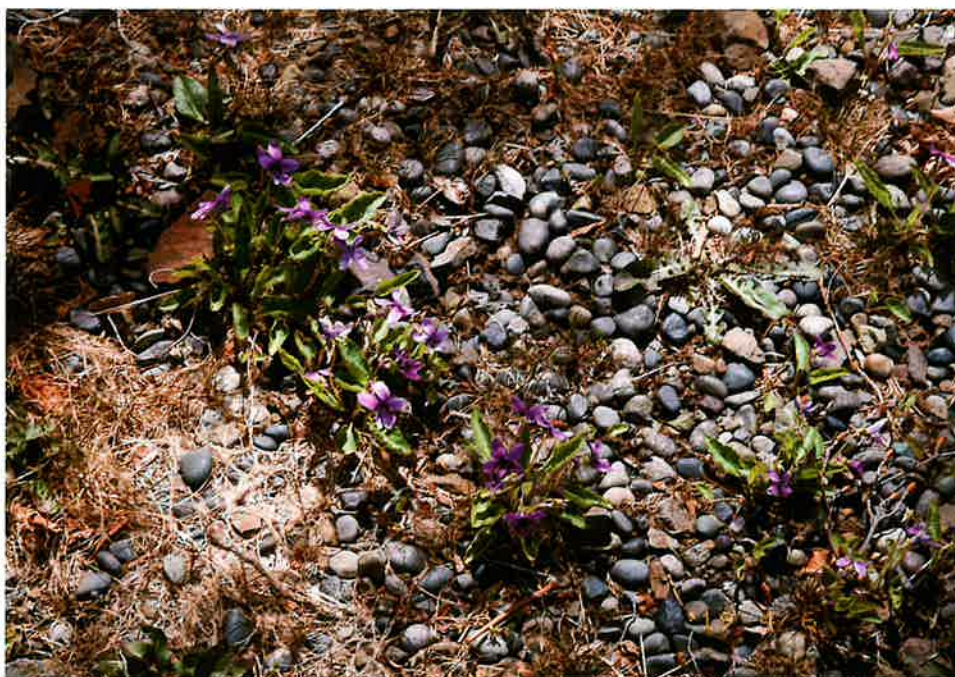
クレマチス



桃色

青色

夕焼け空



紫色

スミレ

東洋の植物への序章「日本再考」—— 森田高雄 編 刊 ——

※ 虫段夫 とは何か。

< 対談 > 高橋克彦 (作家) × 森田高雄 (工学教授)

高橋 : ----- 「東洋の暮らしや習慣は、すべて虫段夫である。」 -----

----- 「ああそうか、虫段夫は血の民族じゃなくて、これは

東洋の土にも... 風土の^{こころ} 育つものかもしれない。」 -----

----- つつとこころに住みこみ... すると、理不尽な^{あきら} 虫段夫の心と対峙して

人間は虫段夫の人間。虫段夫というものは、どこか何かの正義や理想

を内包し秘めてゐる人の代名詞として、これから使つてほしい人じゃ

ないか。 -----

森田 : 僕も「東洋学」を始めてから、九州の鹿児島までいって、反省を

大々こころで驚いてゐる。

高橋 : これは^{いざ} 日本人と虫段夫の共通点があるんじゃないか。

森田 : ええ、そうでしょうね。虫段夫と日本人の比較というテーマは、おもしろ

く感じられると思う、という人じゃないか。 -----

※ 古層 とは何か 沖縄、アイヌへ。

< 垣原和郎 : 自然人類学者 >

垣原 : ----- 昔、日本人全体の歴史と関係が、1870年代前半から、

19世紀^{19世紀} 前半の縄文人であり、この人たちの人種系統は、東アジア

南部の起源をもちと考へられる。

もう一つの隣国要素は、主として、弥生時代、古墳時代を経て、

7世紀後半までの時期に、日本に渡来した人々で、歴史時代になると、彼らも、帰化人というところもある。

渡来人は、すなわち、新作物の文化を日本にもたらし、ついで、金属器を持ち

こみ、その卓越した政治能力によって、従来の縄文人を征服し、ついで、

日本の王朝——朝廷——を確立した。-----

<出典：NHK国史700年③ 日本放送出版協会>

ボタニカル エイジアン：縄文人の人類系統は、古モンゴロイド、弥生人の

人類系統は、新モンゴロイドと呼ばれていられる。

現代の日本人は、日本列島内の混血が進み、固有の単一民族

(日本民族、日本人)の均な群像を呈している。

沖縄、アイヌは、古モンゴロイドの特徴を色濃く残している。

人類のようには見受けられない。

発行所

発行者

〒961-0083 福島県白河市金勝寺156番地1

ボタニカル エイジアン

齋 藤 弥 生

TEL 090-2604-2314

登録番号 T6810454165813



お問い合わせは、

発行所、発行者、ホームページ、SMS、E-mail、郵便、

口頭、電話、G-mail が受け付けられます。(この返信有り。)